
プレゼント / 沖神 / 3Z

弥子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プレゼント / 沖神 / 3Z

【Nコード】

N1417J

【作者名】

弥子

【あらすじ】

クリスマスの出来事。

(前書き)

こんにちは(^^)

クリスマスの夜、みなさんどうお過ごしでしたか？

サンタさんは来ましたか？

私のところにはもう現れそうにないです(；ω；)

1日を終えるチャイムが鳴り響いたのを合図に
素早くカバンに教材をつめこんだ。
そして、席を立とうとした刹那：

『チャイナ確保！』

―…ガシッ

背後から首に腕を回され身動きがとれない。

こんな事するのはアイツしかないのだけれど…。

「何か用アルか？」

肩に顔をのせ、視線をこちらに向けている。
…熱い。

栗色の髪の毛が頬にあたり、くすぐったかった。

『コレ…』

「あ」

『欲しいだろイ?』

私の顔のまえで、アイツの手のひらが広げられる。
そこには、わたしの大好物、
酢昆布が一箱のっかっていた。

「ほ…しい、わけでもなくもない」

『どっちだよ』

何だヨ。

いつもはこんな事しないのに、いきなり優しくなるなヨ…。

「……欲しい」

口を尖らせて、小さな声で呟いた。
アイツは私の頭の上に酢昆布を置くと
何も言わずに私の前を通り過ぎた。

―…何なんだ。

ああやって楽しんでいるのか…
もしくはただ純粹にプレゼントをくれたのか…

私はアイツに悩まされてばかり。

私の心の中を土足で踏み荒らし平気でかき乱す…。

好きだから、嫌なの。

『あ、そうだ…』

「…？」

回れ右をして私の元に戻って来たアイツ…。
今度は何をするつもりなのだろうか。

『もう一個あった』

そう言つて、肩に手を置いてきた。
その手からは熱が伝わってくる。

- …顔が…ち、近いヨッ

思わず目をつぶってしまった。

そして、

まつげが頬をかすめた刹那、

アイツの唇が重なった。

顔を見合わせると、

アイツは見たことがないくらい優しい笑みを浮かべていた。

そうやって、また私を悩ませて
夢中にさせる。

だから嫌なんだってば。

「…な、に…コレ」

『…プレゼント』

「…い、意味分かんねー…ヨ」

顔が熱い。きつと真っ赤だ。

視線を足元にずらして言葉を発するのが精一杯…。

そしてアイツはまたおかしな事を言い出すのだ。

『…すき』

「…ッ！」

―…本当に、…もう。

どんな顔をすればいいのかわからなくなったよ…。

私は両手で顔を隠し小さく頷いた。

そしてアイツはまた優しく微笑んでこう言うのだ。

『メリークリスマス』

（後書き）

メリークリスマス！

まだ大丈夫ですよね…笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1417j/>

プレゼント / 沖神/3Z

2010年10月9日06時48分発行